

金蘭会Tokyo

金蘭会東京支部会報



2005 May. No.12

編集・発行/金蘭会東京支部(大阪府立大手前高等学校同窓会)
事務局/阪本弁護士事務所内
〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-2 みつわビル3F
ホームページ/ www4.airnet.ne.jp/t-kinran/



金蘭会東京支部の第80回記念総会が2004年7月11日「東京デイズニースー・ホテルミラコスタ」で盛大に開催された。史上最多の参加者約300名が集い、フルコースのイタリア料理、デイズニースタッフのショーやバンド演奏を楽しんだ。また、日銀総裁の福井俊彦さん(昭和29年卒)による日本経済の展望や年金問題等のお話に熱心に耳を傾けた。にこやかに記念撮影に應じる福井さん、ミッキーやミニの登場に会場は終始和やかであった。

デイズニースーでの開催で幅広い世代から参加を得、交流の輪が広がり、今後の支部を支える若いメンバーへの期待に繋がる会となった。

記念総会は和やかに盛大に



総会では、史上最多の出席者や、福井俊彦日本銀行総裁のご出席、野田みづきさん(昭和28年卒)のご寄付によりデイズニースーのト百枚を抽選で参加者に差し上げたことなど、数多くのエピソードがあった。しかし、私がつとも忘れられないのは、次の光景だ。

会場に東京駅からのチャーター

「金蘭会」なればこそ…

野口満之(昭和48年卒)



バスが到着し、私も出迎えに出た。ご高齢の大先輩会員の方々が次々と降りてこられる姿に、金蘭会Ⅱ大手前の歴史の重みを感じざるを得なかった。

卒業から30年もして突然「きみたちが幹事学年」と言われ、正直最初は戸惑ったのだが、大先輩たちに接して、「お手伝いをさせていだいてよかった」という思いが、心の底からわき起こったのだ。

久々に集まった同期の面々が、さすがというべきか、それぞれのフィールドで活躍中で、皆がその

●会員数	2,792名
女性	1,311 47.0%
男性	1,481 53.0%
●卒業年代構成	
～大正	23 0.8%
昭和元～10年	115 4.1%
昭和11～20年	284 10.2%
昭和21～30年	349 12.5%
昭和31～40年	703 25.2%
昭和41～50年	792 28.4%
昭和51～64年	428 15.3%
平成元年～	98 3.5%

※数字は2005年4月15日現在

立場を活用したことで、贅沢すぎる幹事団となったことも印象的だった。

精緻なマニュアルを作ってくださった前年当番幹事代表の種野先輩と、今年幹事を務める49年卒の後輩のご協力にも大いに感謝したい。

今年もまた、お会いしましょう！

●金蘭会東京支部データ●

金蘭会東京支部副支部長 奥村弘一郎

本場に素晴らしい総会であった。会場のホテルも立派だったし、福井日銀総裁のお話も良かった。そして何よりも、どの年次からも多数の会員が参加して下さったことが嬉しい。

開催までには幾多の曲折があっ

これから金蘭会と共に

たが、当番幹事の皆様とあの感動を共にさせて頂けたことは一生忘れられまい。直前に亡くなられた中村名誉支部長にもぜひ見て頂きたかった。

これまでの自分を振り返ると、学生時代と会社員時代、そして歯科医に転身してからも、身のまわりに大手前の先輩後輩が居り、その人脈が自分を支え続けて下さった。改めて考えると、自分の人生の中で金蘭会の存在は極めて大

きいものがある。

今回の感激も同窓の皆様と共にできたことを思うと、これからも金蘭会の皆様と共に充実した人生を歩みたいと切望する一方で、この喜びを共にするためにも一人でも多くの同窓の皆様にも声掛けして、金蘭会の活動を充実させたいと願う。

◎略歴

昭和30年 大手前高等学校卒業
昭和35年 東京大学経済学部卒業
昭和47年 東京医科大学歯学部卒業
昭和56年 医療法人仁愛会歯科理事長
平成16年 日本歯科医師会 常務理事
厚生労働省各種政府委員

喜寿記念「桐花会」

赤松 紅子 (昭和20年5卒)

私共は毎年、地元関西での食事会と、旅行会とを続けて参りました。昨年の食事は5月、KKRホテルに、大阪城の天守閣と、懐かしい母校とを望みながら、40名程集いました。10月下旬、日光を巡る旅は、生憎の小雨ながら、東武ワールド、ミニチュアの世界遺産面白く、鬼怒川温泉に一日、翌日は眩い晴天、いろは坂を経て中禅寺湖へ、盛りの紅葉黄葉は雨に洗われて鮮やかに、湖畔のホテルに宿り、次の日、東照宮、二荒山神社等訪ねて帰途に就きました。

東京支部としてはここ数年、支部総会に各自出席した上、二次会で懇親しております。昨年はデイズニースーで、幸せなひとときを楽しみました。

「東京三八会」

入澤 光世 (昭和38年卒)

終戦の前年あるいは終戦の年に生を受けた我々が遂に還暦を迎えて、人生の一区切りを考える年になりました。

いま同級生が集まって語らうのは健康維持や、病気の管理、親の介護問題、そして自分たちの老後と重い話題が多くなってきました。そんな中で唯一の楽しい共通の話題は大阪城を見ながら過ごした青春時代のことです。いつも他愛もない小さな話が盛り上がり、クラブ活動や恋愛話、昔の夢などに一、二回の同級会はそれは楽しいものです。

今年は3組が幹事となり、秋に大阪と東京の合同学年会を、大阪で開きます。

還暦を迎えた今、人それぞれに自分らしい生活に落ち着きつつあるように思えます。若い頃のような情熱が、これからの10年に向けて静かに燃えているそんな気がします。

「あおぎり47関東会」

坂井 淑子 (昭和47年卒)

他の多くの学年の皆さんと同じく、私たち昭和47年卒も、総会の当番幹事をきつかけに関東地区の同期会を開くようになりました。メンバーは約80名です。卒業アルバムにちなんで「あおぎり47関東会」と名づけました。親しく集まるようになってからまだ2年余りですが、忘年会をメインに、総会や、関西組が上京してきた時の「歓迎会」などが定番になっています。女性だけの会もあるんですよ。その他にも、ホームページやメーリングリストで、関東組のみならず各地の同期生とも交流を持ったりして、楽しいお付き合いが続いています。50歳にして同期の輪が一気に広がったのは、本当に嬉しいこと。長く大切にしていきたいと思っています。

学年だより

ADSLからモバイルへ。 イー・アクセス



Making it happen!

Broadband services

<http://www.eaccess.co.jp/>

種野晴夫(昭和42年卒)



山富二郎(東京大学教授)他 昭和43年卒有志推薦

We have a DREAM!

オーガニックレストラン ナート

Organic Restaurant
NAHT
<http://naht.net>

オーナー
竹村俊子(旧姓:舟木 昭和43年卒)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-12-5
市田ビル1F TEL: 03-3237-0052

まち・いえ・にわ・へや・かぐ

<http://www.machi-design.com/>



think globally, act locally.

〒206-0033 多摩市落合6-1-1-103 横山環境計画事務所
tel 042-374-6475 email:office@machi-design.com

横山裕幸(昭和43年卒)

医療法人社団 清雄会

宇井内科クリニック

院長 磯辺 雄二

千葉市稲毛区小仲台6-1-8 TEL.043-251-2009

診療時間 ● 9:00~12:00 15:00~18:30
9:00~12:00 14:00~17:00(土曜)

休 日 ● 水曜・日曜・祝日

(昭和48年卒)

昭和二〇年の大手前生活



作家・陶芸家

俵 萌子さん
(昭和23年卒)

大阪外国語大学フランス語学科卒業。産経新聞記者を経て、女性・家庭・教育問題を中心にした社会評論家および作家として活動中。日本初の準公選で東京都中野区教育委員（1981～1985）、俵萌子陶芸塾主宰、俵萌子美術館館長。「六十代の幸福」「生きることは始めること」「命を輝かせて生きる」（海竜社）など著書60数冊。

ことは、太平洋戦争敗戦の六〇周年に当たる。NHKBS2「あの日ー昭和二〇年の記憶」の番組担当者から、出演依頼の話があった。あの年（昭和二〇年）、私は大阪府立大手前高等女学校の三年生であった。いまでいう中学三年生。十四歳だった。その年の三月には、学校疎

開を手伝わされた。大手前の机や椅子を豊中高女（いまの桜塚高校）に運んだ。一、二年生は、四月から豊中高女で授業を受けた。私たち三年生は、五月十四日から、高槻市にあるユアサ蓄電池工場へ勤労動員に行った。三年生全員が強制的に工場の寮に入られた。上級生は、通勤で工場に通っていた。親元から離れ、十四歳だけが全寮生活をするだけでも大変だ。なのに、その日から慣れぬ工場作業が始まる。私たちの仕事は潜水艦に積む蓄電池の仕上げ作業。明けでも、暮れても、朝は七時半から、エボナイトにヤスリをかける作業をやった。

敗戦の放送はもちろん、この工

場の寮で聴いた。しかし、雑音だらけの放送が、十四歳に理解できるわけがない。私は、天皇が、もっと頑張れといっておられるのだと思っていた。北朝鮮の子供のようにに教育されていた私は、日本が負けるなんてあり得ないと思っていたのだ。

十四歳の寮生活は悲惨なものだった。洗濯が下手なのか、私たちはすぐシラミとノミだらけになっ

敗戦後は、爆弾でこわれた校舎の後片づけ、教科書を墨で塗りつぶす作業、豊中高女からの再引越などで忙しく、授業なんかほとんど無かった。それでも私たちの親は授業料を払っていたようだ。私生活も大変だった。六月七日の空襲で大阪市内の家が焼けた。間借り生活を転々とし、きょうだいは疎開しており、一家離散の昭和二〇年であった。

そんな話をNHKBS2では、四回に分けて放送するという。昭和二〇年大手前生徒、生の声を、ぜひお聞きいただきたい。（放送日は4／23、6／14、8／13、10／16の予定）

エネルギー問題を通してみる世界



(財)日本エネルギー経済研究所常務理事

十市 勉さん
(昭和39年卒)

東京大学大学院地球物理コース博士課程卒業（理学博士）、(財)日本エネルギー経済研究所入所。1983年マサチューセッツ工科大学客員研究員。2000年（財）日本エネルギー経済研究所常務理事。著書に『エネルギーと国の役割ー地球温暖化時代の税制を考える』（コロナ社2001年）等。政府審議会等委員として活躍中。

エネルギー問題の研究を始めてから、今年で三十二年になる。大学院では、極地域の夜空に美しく輝くオーロラが研究の対象だった。しかし、もっと人間社会との接点を持ちたくなって、一大決心をして商売変えをした。

それ以来、エネルギー問題というプリズムを通して世界と日本の情

勢を分析し、社会に情報発信をしたり、国の政策立案に関与する仕事をしている。その中で、少しかけ誇れることは、NHKラジオの「ビジネス展望」という早朝番組で、十五年近く月一回の頻度でエネルギー問題について解説をしていることである。

振り返って見ると、入所した年の昭和四十八年十月には第一次石油ショックが起き、狂乱インフレで日本中が大混乱に陥った。その後も、世界の石油供給基地である中東では、イラン革命や湾岸危機、イラク戦争と七十年毎に大事件が起き、その度に石油問題が重大な関心事となってきた。

しかし、最近の日本では、経済の低成長や少子高齢化の影響もあ

り、エネルギーの供給に不安を持つ人が少なくなった。とくに三十代以下の若い人にとつて、石油ショックは、教科書で学んだ歴史事件に過ぎなくなっている。

一方、アジア諸国に目を転じると、急激なモータリゼーションや工業化で、石油や電力の需要が急増している。その結果、多くのアジア諸国は、中東石油への依存を一段と高めている。とくに、エネルギー不足が深刻な中国では、国を挙げて世界中で資源確保に乗り出している。最近では日中間で、ロシアの東シベリアからの原油パイプラインを巡って激しく競合したり、東シナ海のカス田開発を巡って対立が深まっている。

このような中で、今後とも日本

が豊かな経済社会を維持していくには、近隣諸国との友好関係を築き、アジア地域の平和と安定を図ることが不可欠である。日韓関係は、冬ソナ・ブームの影響もあり、改善が著しい。しかし、中国との歴史問題やロシアとの領土問題、北朝鮮との拉致・核開発問題など、多くの難問を抱えている。

最近、私が最も関心を持って研究しているテーマは、数十年先を見通して、「アジア・エネルギー環境共同体」を作ることである。資源開発や省エネルギー、環境分野で地道な地域協力を進めることが、アジア諸国の相互信頼を築くのに役立つと考えるからである。

まさか？ びっくり！

井出隆也(昭和32年卒)

今から十数年前、まだ現役だった時のお話。私は某鉄鋼メーカーに勤務しており、ある技術開発に係っていました。これは最終的には省庁の認可が絡んでいるため、一社ですめることの困難が予想されること、またバブル崩壊後の当時、大手鉄鋼5社は共同で業界を盛り上げようという風潮があったことから、共同研究開発することになりました。共同研究開発契

Member's Voice Tokyo Kinrankai

約を締結する5社の合意が成立し、各社の契約締結の署名捺印者の氏名が出そろってびっくり、5社中3人までが大手前高校昭和32年卒、赤秀公造君（8組）、梶崎男君（7組）、と私（7組）だったのです。しかも英語と数学の授業は同じ教室で受けていた間柄でした。

この研究開発は超高層ビルの骨組に適した鋼材の開発、およびその利用技術の研究で、その後多くのビルに適用され、耐震安全性と経済性に寄与しています。3人は

これを機会に、泊りがけのゴルフに行ったりして旧交を暖めました。3人とも全くの下手くそ、でも断然練習熱心なのは梶君でしたが、惜しくも一昨年故人となりました。

[3-I VIN]

川端マツオ(昭和52年卒)

我がクラスは通称3ーVIN。田中敏先生（愛称ビン）の初担任なので、良い年VintageのワインVINと言葉を掛け、皆で命名しました。卒業後も一同で仲良く琵琶湖旅

「天国では、気持ちよくアリアが歌えますか」



追悼：中村節子名誉支部長 享年八十二歳

金蘭会東京支部のため長年にわたりご尽力くださった中村名誉支部長（昭和14年卒）が2004年5月24日に急逝されました。昨夏、盛大に開催され80回記念となった支部総会、東京在住の数名の卒業生から始まり2800名の東京支部へと発展する礎を築いたのは、中村さんを中心とした高等女学校の卒業生の方々でした。

この記念総会に出席することを、最後まで楽しみにされていたそうです。告別式では、女学生時代にオペラ歌手を夢見られた故人を偲びアリアが流れる中、多くの世代を越えた同窓生がお別れをしました。

「久米やん」からのお礼

「久米やん」は大手前時代の母の愛称ですが、その母が亡くなって早一年が経ちます。その際には大手前の同級生、後輩の多くの方々から弔問、ご弔辞をいただきました。深く御礼を申し上げます。

昨年2月の役員会までお元気に出席され、母校愛に溢れたご意見番として後輩たちへアドバイスをされる一方、懇親会ではお茶目で好奇心溢れるご様子でした。背筋をピンと伸ばしたお姿のまま天国に召された中村さんのご冥福をお祈りいたします。ご遺族の中村和子さんから、故人の思い出を寄せていただきました。

皆様からお聞きした、又お手紙に記された母の生前は家族にとつても感慨深いことばかりでした。「全力疾走の82年」と家族は思いましたが、その82年が多くの人達、とりわけ大手前にご縁のある方々によつて支えられ、勇気づけられていたことは母にとつて本当に幸せでした。特に私達子供を育てた戦後混乱期に見た母の信じられないエネルギーが「私は大手前の人間だ」と言う強烈なプライドに裏打ちされたモノであつたことを改めて感じています。

祖母や母の母校・憧れの大手前に通った幸せな娘時代、それをバックボーンに歯を食いしばった主婦の時代、そして大手前の同級生や後輩の暖かい眼差しに囲まれた穏やかな晩年、「久米やん」は皆様に心より感謝しているに違いありません。有難うございました。

私が目指していること

佐伯あゆみ(平成16年卒)



私は今、国会速記者になることを目指して衆議院速記者養成所というところで学んでいます。速記とは、特殊な符号を用いて発言者の言葉を逐語的に記録し、それを本文に直す技術のことをいいますが、発言を聞き取る集中力と言葉についての豊富な知識がないと務まらない大変な仕事です。しかし、国会という政治の最前線にいて、じかに政治の動きを感じることができるといふ魅力があり、それが私が速記者を目指すきっかけでした。

しかし最近速記者廃止の動きが高まり、実際に参議院では速記を廃止し、機械による議事録の作

支部会計報告 (平成15年度) 平成15年1月1日～12月31日	
収入の部 金額(円)	支出の部 金額(円)
前年度繰越 5,300,211	総会補助費 94,941
支部会費 681,000	支部運営費 219,876
(内訳)	(内訳)
終身会費分 560,000	会議費 84,061
年会費分 121,000	事務所使用料 60,000
	通信費 10,660
雑収入 47,254	HP費用 22,820
	雑費 42,335
貯金利息 22	次期繰越金 5,713,670
合計 6,028,487	合計 6,028,487

成を採用することが決定しました。しかし人の手による方が間違いが少なく、正確な記録の作成が可能です。今は速記の信頼性が増すように、正確な記録がとれる速記者になって政治に貢献できるように日々努力したいと思っています。

計報

平成15年8月から平成16年7月にご連絡をいただき第80回総会にてご報告・黙祷いたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

山本 春子 (昭和5年卒)	平川 豊子 (昭和12年卒)
中村 節子 (昭和14年卒)	福島 和子 (昭和16年卒)
宮下 登美子 (昭和19年卒)	岩崎 恵美 (昭和20年卒)
川邊 晴久 (昭和25年卒)	沖 信子 (昭和28年卒)
今井 豊 (昭和28年卒)	神馬 玄佐雄 (昭和28年卒)
西村 幸子 (昭和38年卒)	清水 宣次 (昭和38年卒)
山本 達雄 (昭和38年卒)	

(敬称略)